大泉高校新聞

【発行所】
東京都練馬区
東大泉5-3-1
都立大泉高等
学校
新聞小委員会
電(3924)0318
〔発行責任者〕
2－6大澤悟郎

後期 生徒会選挙終わる！

またも延期の末、4人態勢で新執行出発

▲左から、新会計 青柳くん、新無任所 入沢くん、新会長 永井くん、新副会長 青木くん　Ⓒ写真部

十一月十一日水曜日の五校時に、後期生徒会選挙が行われた。本当ならば十一月四日水曜日の五校時に行われるはずだったのだが、今回も一年生からの立候補者がいなかったため延期となった。その後、一年生から立候補者が一人たったので、一週間遅れで選挙が行われることとなった。

立候補者は、会長に二年六組永井潤君、副会長に一年三組青木剛君、会計に二年六組青柳元康君、無任所に二年一組入沢一郎君の四人だった。この四人の立候補者の選挙演説は、予定では全学年をアリーナに集めて行うことになっていたが、当日になって急に変更され、一年生は柔道場に集まって、二年生は各教室で放送によって、三年生はアリーナに集まって選挙演説を聞くことときなった。

立候補者は三ヵ所で同じように演説することになったわけだが、皆さんはしっかりと聞いていただろうか。前回と同様の態度であったのならば、残念なことである。二年生の態度を見た限りでは、静かにちゃんと聞くということはなく、ここからも生徒会への無関心さがうかがえた。

演説のすぐ後に、投票が行われた。選挙管理委員会によって即日開票され、午後五時前には結果がでた。結果は、四人とも当選。集計結果は次のようになった。

当日出席した全学年の生徒人数は一一六三人。そのうち投票人数は、一〇三九人。出席者数の八九・三%である。会長候補の永井君は、七七四票（投票人数の七五・〇%）を集めて、副会長候補の青木君は、九〇七票（八七・三%）を集めて、会計候補の青柳君は、八五八票（八二・六%）を集めて、無任所候補の入沢君は、八四一票（八〇・九%）を集めてそれぞれ当選した。

新会長 永井君の挨拶

今回の選挙で会長になりました永井です。私の言おうとしたことはこの面の『現在の執行を思う…』の中ではほぼ述べましたので省きますが、これから半年間がんばって生徒会活動を盛り上げていきたいと思います。よろしくお願いします。

新副会長青木君の挨拶

このたび副会長になりました青木です。投票率が高かったそうでご協力に感謝この上ないです。今後の執行につきましては、各行事の活動をより活発に、それでいてやるべきことはちゃんとやるというような生徒になるように努力していきたいと思います。

新会計青柳君の挨拶

行事などに密接に関わる会計。その重要さを感じて私は会計になりました。分かりやすく公平な会計を目指すと同時に、手続きの矛盾や不合理さを変えていきたいと思います。着実に仕事をこなして精一杯がんばりますので、皆さんにも協力をお願いします。

新無任所入沢君の挨拶

みなさん、こんにちは、無任所の入沢です。前にも執行委員会紙：Communication：で述べたことですが、生徒会はみなさんの声、つまり苦情や要望を改善、実現させる所であり、「区役所」のような所であります。みなさんの声がないと、役員の独断による横暴な政治（それほど大げさなものではないが…）が展開されることになります。

生徒会役員は、「役人根性」はもっていません。本校は自由すぎて、不自由はあまり感じられませんが、どうぞ気軽に役員を使ってやって下さい。

生徒会の衰退化は今に言われはじめたことではないが、最近それが著しく思われる。今回の選挙でも生徒会への無関心さがずいぶん表れていた。何故かと聞くと、だいたいの生徒が、「執行って何やってるのかわからない。」「無任所って何？」というようなことを答えた。やはり執行委員が中心となり、生徒会活動の内容を明示する必要があるようだ。そして生徒に自分達のこととして、活動を身近に感じてもらわなければ、衰退をくい止めることはできないのではないだろうか。

執行委員会では、毎週一回以上定例会を開き、生徒会活動の活性化のために話し合っている。

≪N≫

現（いま）在の執行を思う…

前期執行委員会副会長　二年　永井　潤

最近、執行委員会の活動が低迷しているなどということをよく耳にする。執行委員会の活動にかかわっている者にしてはいささか厳しい言葉であるが、実際に、ここ数年に渡っての活動を考えてみると、各クラスの時計設置運動、空き缶リサイクル運動以後、大したことはやっていないのである。昨年一年間、そして今年の前期の活動は事務的な仕事（会計関係や印刷など）で終わろうとしている。よって執行の活動があまり目につかないので低迷していると言われるのだろうか。ここで、現在の執行の現状、そしてこれからの生徒会活動全体について考えてみようと思う。

現在（十一月七日現在）の執行委員会のメンバーは三人である。会長に一年の三石、副会長に私、会計に二年の小林の三人である。ご存知のように、今年の六月に行われた選挙で現在の執行委員会が発足した。ところが六月に選挙が行われたことが問題なのである。

では、何故問題なのか。それは例年、前期生徒会役員選挙は五月中に行われるのである。三石が立候補するまで一年生の立候補がなかったので延期に延期を重ね、六月に行われたのである。まあ、入学して三月もたっていないので前期の場合はしょうがないとも言えるが、現在行っている後期生徒会役員立候補受付には二年がたった二人だけ立候補しているのみである。一年生の立候補が皆無というのはとてもさびしい。後期には二度の生徒総会、そして会計監査などと大事な仕事がとても多いのだ。これでは後期も前期と同じ羽目に陥る可能性が大きい。いや、来年、現在の二年生が引退した後の生徒会活動が存続しているかどうかもわからない。別に一年生のみをどうこう言う訳ではないが、本校生徒ほぼ全員が生徒会活動を重視していないということが言えるのではないだろうか。

毎週月曜日の昼休みに行われる生徒委員会でもそのことはあてはまる。生徒会活動の中枢機関とも言うべき大事な委員会であるのに、出席率はとても低い。それだけではなく、委員会に出席しても授業の予習などをする委員もいるという有様である。どうみても生徒会活動を、活発に、且つ円滑に行う、という心意気が少しも感じられないのだ。

さらに、今年五月に行われた生徒総会でも、その傾向はみられた。総会中は終始ざわついており、配られた書類を紙飛行機にしたり、本を読んだり、トランプをしたりする生徒がおり、あげくの果てには、総会会場から出ていく生徒もいたという。これでは何のために生徒総会をやっているのかわからない。ほとんどの承認事項は賛成多数で承認されたが、真剣に議題について考えた人はどのくらいいただろうか。

一番驚いたのは文化祭の日である。三年生のあるクラスでオリエンテーリングをやっていた。それは紙に本校に関する問題が書かれていて、それに答えるために校内を巡る、といったものだったと思うが、その問題の中に「現在の生徒会の会長の名は？」というのがあったらしい。なぜ驚いたかというと、会長の名を尋ねに生徒会室に来た本校生徒がいたのである。自分の学校の生徒会長を知らないとは…。

これでわかるように生徒の意識の低下によって生徒会活動は崖っぷちにたたされているのだ。現在は、執行委員会の活動は執行の新聞〝コミュニケーション〟を発行するということまでもままならないほど停滞しているのだ。だから大規模な運動などを率先してできるわけがない。なにしろ生徒会役員、すなわち選挙の立候補者が少ないのだ。さらに、生徒の生徒会活動に対する意識も低いため、大きな活動ができないままでいるのである。

「僕は高校に勉強しに来たんだからそんなのはどうでもいいや。」とか「私は生徒会より部活優先。」などと考えている人もいると思う。また、「どうせ執行委員会はオタクの集まり。」などと思っている生徒も多いと思う。しかしごたくをならべて生徒会活動から遠ざかって自分のことに専念するよりも、現在のこの退廃的な危機的状況をしっかりとみつめてもらいたい。そして生徒会活動の重要性（部活動等の私費、都費といった金銭面だけでなく）を改めて考え直し、今まで続いた執行委員会を廃止に追い込まないよう、そしてこれからの生徒会活動を盛りあげていけるように、少しでも生徒会活動に関心を持ってほしい。そしてこれらの課題を全校生徒、特に一年生が中心となってこなしていってほしい。いや、こなさなくてはならないと私は思う。

「自由な学校」としての大泉高校の伝統を絶やさないためにも…。

≪J≫

路標

▼生徒会の衰退と共に、我が新聞小委員会も、着々と衰退の一途をたどっていると感じる今日この頃。▼人手不足に悩まされ続け、一生懸命作っても、皆に楽しく読んでもらえるわけでもない…。はたしてこのまま続けていて意味があるのかどうか…。先日行ったアンケートにも「紙のムダ」etc.の声が、少数だが寄せられていた。▼大泉高校唯一の報道機関である新聞小委員会。その大泉高校新聞への関心が薄れてきているということは、とても悲しいことであり、と同時にそれは、大泉高校という学校自体への関心が、だんだん無くなってきていることを意味すると言っても過言ではないのではないだろうか。▼毎回のように延期されている生徒会選挙。この裏には、〝立候補者がいないから〟という情けない現状がある。全校をリードし、生徒会全体を運営していくはずの生徒会執行委員会。ここでも我が新聞小委員会と同じ悩みを抱えていた。人材不足。関心の薄れ…。▼今、大泉高校に課せられている課題の一つとして、これは欠かせないものと言えるだろう。そこで、その課題を解消する一助と言ってはさしさわりがあるが、学校に関することを多く載せてみた。日頃生活している学校のことに、少しでも興味を持ってもらえると幸いである。▼何にでも言えることであると思うが、いろいろな方面に目を向け、いろいろなことに興味を持つということは大切なことであり、今の僕らにはそれが欠けていると思う。つい目先の楽しみばかりにとらわれてしまう傾向のある現代ではあるが、やりがいのある何かをやりとげた後の、充実感のようなものを楽しいと思えたら、どんなにかすばらしいことだろうか。

≪G≫

部活動紹介

サッカー部 & ラグビー部

今号から、〝部活紹介〟というコーナーを新しく設け、運動部を中心に、各部の活動状況、試合結果、部員の裏話などを、楽しく紹介していこうと思います。
そこでまず第一回として、『最近安定した実力をつけてきつつある!?サッカー部』と、『伝統的な強さに磨きのかかってきた!?ラグビー部』から……。

●サッカー部

過去全国大会二度出場。以来、未だにその栄光をひきずりっぱなしのサッカー部!?

○部員数……61名(63名)＋マネージャー4名。

○顧問……清水　眞事先生
　　沢辺　朋史先生

○主な公式戦試合結果
≪選手権地区予選≫
①VS.武蔵丘（5－1）
②VS.日大鶴ヶ丘（5－0）
③VS.光丘（3－2）
　優勝！都大会進出。
≪都大会≫
①VS.学芸大附属（3－0）
②VS.帝京（0－5）
　ここで敗退。

○活動日……月火水金土
　（日は試合）

○日頃の練習メニュー
1.集合し、その日の練習内容を伝達。
2.アップ開始…ばらばらにやるのでまとまりがないが、非常に合理的!?
3.ポスト…ポストシュート（郵便ポストではない）。
4.中三…中に3人入ってセンタリングシュート（中学三年生の略ではない）。
5.それ以後、メニューはその日によって変わる。
6.最後はダッシュ、体操を行って終了。ミーティング（反省）も欠かさない。

○今後の予定（10/29現在）
「11/1から新人戦。新しい代になって初めての公式戦。一週間後に大会を控えた未だに、意気込みがあらわれていないのが気がかり。目標は、まず一つ勝つこと。一つ一つ大事に戦っていけば、結果は出てくると信じている。」

○回想〝心に残っている試合〟
選手権予選、都大会、第二回戦でのこと。昨年の全国覇者帝京高校とあたってしまった（だれかのくじ運が良く）。結果は0－5と完敗。が、60分まで、圧倒的に押されたものの、0－0と健闘した。やはり案の定、後半で5点もとられてしまったが、ラストをいかに戦うかという課題を残すことのできた、価値あるゲーム、ということにしておこう。

三年生が3人と、非常に苦しい状態ではあったが、二年生を中心にみんながんばってくれたと思う。この試合を単なる思い出にせず、一人一人のプラスにすることができるよう、今後もがんばっていきたいと思う。（奥野＆大澤）

●ここで少し、サッカー部の知的レベルの低い面を……。（尚、以下の文章責任の一切は、2の5丸山にあります。）

大泉高校サッカー部は、伝統的なバカの集まりである。野生児村山や、野人高畠、バナナン奥野、犯罪者永田、病人春川など、人間ばなれした、個性的な選手が数多い。

動物系（野生化した）の選手が多いため、部室は動物園、グラウンドはサファリパークと化している。

チームの特色。今年のチームは昨年のチームのレギュラーが6人、補欠が4人残っているため、今年のレギュラーは昨年のレギュラーとあまり変わっていない。しかし実力は昨年以上だと思う。

特にFWの福田と一木のコンビは最強である。一試合平均3点は取る。福田はどこからでも、どんな体勢からでも、シュートを打ち、一木は昨年のFWの小倉くん（四中工の小倉ではない）のように、せこくこぼれ球をつめる。二人は大泉の点取り屋である。（しかしテストの点はすさまじく取れない。）

HBの生山、奥野、蓮田は、奥野を中心にボールをつなぎ、チャンスをつくり出す。同じくHBの村山は、相手のボールをうばいまくる。

DFの佐瀬、中丸、丸山は、3人で平均身長181cmと超大型である。しかし漫才師横田(和)が加わると、一気に平均身長170cmまでになってしまう。が、それでもディフェンスは強力である。

現在GKは大木が勤めているが、昨年のGK高畠くんのように、もっと守護獣になってもらいたいと思う。

以上が主なレギュラーである。部員数がとても多いため、メンバーに入るのは○×くんが大学にストレートで入るのと同じくらい困難である。それでもレギュラーになるために、部員一人ひとりが朝練や自主練などをして、一生懸命にがんばっている。

部員はみんなサッカーが大好きである。練習中や試合中はサッカー以外のことは考えない。しかしサッカーをしていない時の部員は、皆女好きである。夏休みに団体で〝のぞき〟をしている姿はとても情けなかった。それから…。

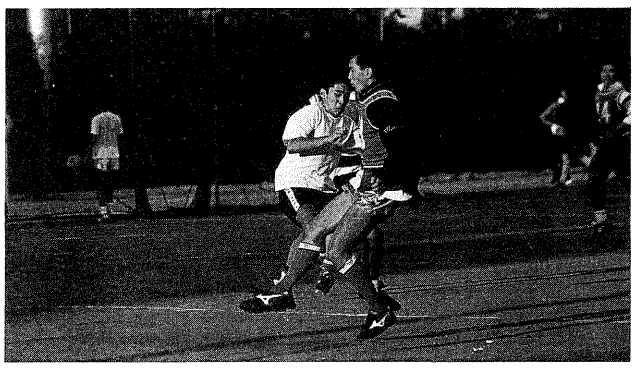
と、これ以上のことは部員の信用を失ってしまうので書くことができない。（さんざん書いといて…）。

まあ当面の目標は、帝京をたおし、全国大会に出場することであろうか。そのためにはやはりみなさんの応援がなければ…。

ということで、〝ファンクラブ〟〝サッカー部応援団〟などを作ってほしい。尚、部員へのファンレターetcは、常時受け付けているので、どんどんよろしく!!

（丸山）

▲〝個性派集団〟サッカー部のメンバー達　©写真部


▲「サッカーは格闘技だ」（練習風景より）　©写真部

●ラグビー部

いったい強いのか。弱いのか。部員はおろか、顧問の素性すらわからないというナゾのラグビー部!?

○部員数……23名＋マネージャー4名。

○顧問……藤原　満先生
　　千葉　瑞夫先生
　　野村　重碩先生

○主な試合結果
≪春季大会≫
①VS.田園調布（15－0）
②VS.大森（55－0）
③VS.永山（45－0）
④VS.豊多摩（3－38）
　敗退……。
≪秋季大会(全国大会予選)≫
①VS.青山（17－19）
　敗退……。

○活動日……月火水金土

○活動場所……グランド

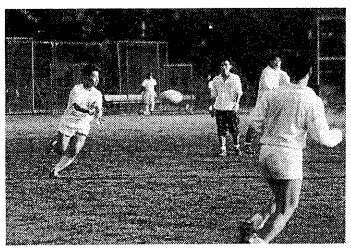
○時間……三時半～五時

○日頃の練習メニュー
1.首…みんなで輪になって行う。輪の中心にはキャプテンが入る。
2.基本スキル…5人ずつぐらいのグループに分かれて、ダウンボールなどの基本的なスキル練習。
3.トップヘッド…FW＆BKが一緒にキャッチング。（夏の練習は特につらい。）
4.FWとBKに分かれて。
FW…スクラム・モールetc。
BK…3人フォロー・ライン etc。
5.FW・BKの合わせ練習…もう一度、FW＆BKが一緒にゲームを想定して行い、仕上げる。
6.タックル…ラグビーの主となる、タックルの練習。
7.整理体操をしておしまい。
（新チームは特に走り込みに重点をおいて練習している。）

○今後の予定（11/2現在）
新チーム結成後初の公式戦となる新人戦が、12/20から始まる。スタメン15人中、大半が1年生という、いささか頼りないチームではあるが、優勝へ向けて着実に実力をつけてきている（と思う…）。今までの反省を生かし、一つ一つ大切に勝ち進んでほしい。

めざせ優勝。めざせ1部！花園へ向けてがんばろう!!

（マネージャー）



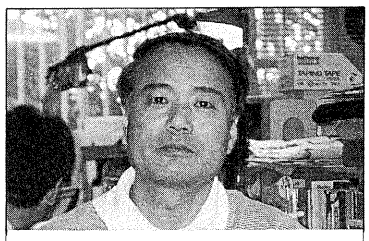
●THEラグビー部内部事情

11月末の新人戦に向け、われわれラグビー部は、驚くことに新チームになってから練習試合は負けなしという、輝かしい記録を更新している（1戦1勝）。

キャプテンの佐々木康裕は、自称硬派だが、ラグビー部で唯一手首にプロミスリングをつけている、ナンパ野郎である。新チームの練習が始まり、練習前後の声出しができていないことに気づいた彼は、〝豆

青春雑感

体育科　大田和久先生



私は中学二年の秋、鹿児島県から上京した。兄が野球留学をするための経済的理由から、私が姉の居る東京のアパートに住むことになったからだ。

練馬区のH中学に転入した。困ったのは、東京弁をしゃべられないという事だった。ほとんど無言の学校生活だったが、楽しい中学校生活だった。担任が非常によい先生だったからである。当時三十五歳、独身の体育教師だった。私の所属するテニス部教師でもあった。飾らない素朴で、生徒をエコ贔屓せず、弱い者(成績の悪い、貧乏の生徒……私は両方だった)をいつも気にかけてくれた。

クラスの男共、女共が、連れだって、担任の下宿先に、毎日曜日遊びに押しかけた。

山男の先生の部屋にはラジュウス、コッヘル等の道具が壁のピッケルと共にあった。夏になると、短パン代わりに、それまで着用していた白のトレパンの膝から下をカットして、「経済的だ」と自慢されていた。気が向くと、無銭旅行へ行くぞ、と、食糧一品ずつ持参させて、石神井公園、井の頭公園、神代寺公園と歩いた。詩の会と称して、雨の日曜日登校させて、文章を書かせ、新聞社へ投稿させた。林間学校へ行けない生徒のために、校庭にテントを張り、闇汁(やみじる)を食べる会を催してくれた。そんな担任に、ある日一人だけで下宿先に呼ばれた。三年生の五月だった。

「大田、Kというクラスの女生徒を知ってるか？」「いいえ、知りません。」「そうか、実はなー、先日の父母会の後で、Kの両親から相談されたんだけど…、Kが大田を好きらしいんだ。」「はあ…」

「でも、大田は無口でほとんどしゃべらないだろう。話すキッカケが無いから悩んで、勉強が手につかないんらしいんだ。高校受験が終わるまで、かたちだけで良いから、婚約してくれ、と云うんだ。」さあ困った。無口の私にだって口には出さないが、意中の人位はいたのだから。「先生、突然、婚約なんて云われても…、これからは、Kさんの事も良く考えて行動します。何かあったら、先生に相談しますので…」先生は、特にどうしろとも云われなかった。その頃から、登校すると、正門脇で女二人でKさんが待っていた。「オハヨウ」と介添役の方が云う。私は照れ隠しに、首を下げる。そして、時々、手紙を友達の彼女が渡すようになった。私は黙って担任へ渡した。文面を読みもしないで、黙って担任に渡すなんて。初心者な私はどうしたら良いかわからなかったのである。青春は残酷だ。人生の機微と、対処の仕方を教えてくれない。担任も又、何一つ云わなかった。Kさんは都立高校の入試に失敗した(当時は都立が私立よりレベルが高かった)。入試の結果がわかってから数月過ぎたアパートの扉を叩くので、開けると、テニス部の後輩の主将が立っていた。「先輩、外にKさんが待ってます。」例の二人である。「どうも！」と私から会釈した。申し訳ないという気持ちになっていたから。Kさんが初めて、口を開いた。私の高校合格の記念に、万年筆を貰ってくれ、というのだ。私は今にも泣き出したくなった。自分のため（？）に、受験を失敗したのに、その本人の鈍感な黙り馬鹿に記念品を贈ろうという女心。今だったら……。

青春時代は残酷だ。欲しいときに、何一つ手に入らない。夢を追いかける情熱に、日夜苦しめられる。狭さと無茶しか与えてくれない。潔いと称して、他者を傷つける。

佐藤春夫の詩じゃないが…
野行き、山行き、海辺行き
真昼の丘べ花を籍き、
つぶら瞳の君ゆえに
憂いは碧し空よりも
ワーズワースの詩じゃないが
……草原の輝き、そは
再び還らずとも……

その中学の担任の先生に、私は結婚式の仲人役を引き受けていただいた。（大田和久）

大田先生、大変御忙しい中、執筆いただき、ありがとうございました。

原稿を頼みに行った時、大田先生に、

「僕の青春は暗かったから、書くことなんてないよ。」

と言われ、それをうのみし、どうしようかと思いましたが、〆切日には素敵な文章が出来上がっていて、ホッとしました!?御協力ありがとうございました。

《G》

タンク1号剣持貴一郎〟と、〝色が黒いけど白井大〟を部活の練習後30分もつき合わせて、部室で声出しの練習をしたことがあった。が、まだダサさは隠しきれない。

副キャプテン〝スパッツ命関口透〟。普段の行いはとても悪いのに、運だけはだれにも負けないというラッキーボーイの彼は、顧問とタメ語を話す、唯一の部員である。

学校中の有名人、島崎カンは、典型的な野生児である。それは、一週間同じラガーシャツを着続けたり、木にひっかかったボールを猿のごとく登って取る、などだけから言えることではない。彼は、部で遊びに行った時など、全裸で川を泳いだ（その際、彼が背泳ぎをしたかは定かではないが…）。このように、彼のことを書き出したらきりがない（ちなみに、信じられないが彼は〝アタックNo.1おたく深沢健一郎〟同様、社長息子である）。

〝意外性の男内田武彦〟。彼はグランドを芝生にするべく、毎日欠かさず陸上部百メートルコース横の雑草に、水をやっている。彼については、一年半一緒にプレーしてきたが、未だにその真意は把めていない。

部室はきれいさっぱりしていて、どこかの男子硬式〇ニス部のようなエッチなポスターははっていない（と思う）。

マネージャーの美しさは、この世に類を見ない（都立小石川高のキャプテンが褒めたほどである）。とてもよく働いてくれるマネージャーに、部員は皆多大なる感謝の心と安心感をもって、いつもプレーしている。

顧問は国語科の満氏。アゲインと69点をモットーに、赤点をとった者にレギュラーはいないと豪語する。が、現在のキャプテン、副キャプテンは過去にしっかりと赤点を保持した経験を持つ（共にチームには欠かせないレギュラーである）。ちなみにキャプテンの佐々木は、毎回赤点という記録を、現在も更新中である。

我々ラグビー部は、新人戦優勝に向けてがんばっている。ぜひ応援よろしく。尚、ファンレターは『大泉高校部室棟21号室』まで。

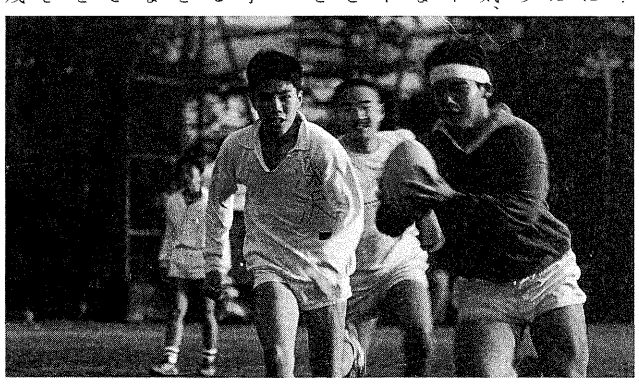
（レ、関口透&島崎敢）

▲〝チームワークで花園を目指す〟ラグビー部員達　©写真部

おそまつ様でした。今回から始めた「部活紹介」、いかがでしたか？まあ良いにしろ悪いにしろ、その部の雰囲気、チームワーク「品」などは、いやになるほどわかったと思います。ただ、活字として載るのは修正を加えた物なので、皆さんに原稿をお見せできないのが残念です。

まあ他の部も、どこか必ず、その部独特の雰囲気というものを持っていると思います。このコーナーでは、そんな部活動の〝活気〟というものを募集しています。ぜひ載せてほしい部がありましたら、各クラス新聞小委員までどうぞ。

《G》



▲「グランドは俺達の青春だ」（練習風景より）　©写真部

よろしく!!

――部活動宣伝コーナー

《ダンス部》

練習に練習をかさね、私達ダンス部は11月3日、23日とダンスコンクールに出場しました。〝今〟というテーマをもとにした創作ダンスです。今＝現代＝自然破壊と考え、自然破壊について表現しました。コンクールでは〝今〟というものを様々な方向からとらえ、とても工夫された作品が多くあり、又、技術的にもかなり高レベルなものもみられ、今後のよきアドバイスとなりました。ダンス部は大会数や学校内での活動が少ないけれど、その一回一回を大切に、常に踊る事の楽しさ、喜び等を忘れず頑張っています。今年の新歓は期待していて下さい!!

（沢田）

《女子バレーボール部》

10月に行なわれた第3学区戦（都立高校戦）で準優勝。11月の新人リーグ戦では優勝しました。ただ今、春の大会に向けて練習中です。応援よろしく。

尚、マネージャー募集中です。

（本橋）

《硬式テニス部》

東京都新人戦の結果
男子総合11位
女子総合7位

第7回練馬区対抗戦（団体戦）で、女子は5年連続優勝。男子は残念ながらV5はならず、都6位の学大大泉に負けて準優勝に終わった。（高橋）

《ソフトテニス部》

マネージャー大募集!!

《男子バレーボール部》

マネージャー募集中。

《演劇部》

はいはいこちらは演劇部
演音祭なら演劇部
あなたもわたしも演劇部
とても楽しい演劇部
みんなで入ろう演劇部
それではよろしく演劇部

（わたし）

《吹奏楽部》

第15回定期演奏会のお知らせ
日時　平成五年
　　三月二十九日月曜日
会場　練馬文化センター
　　大ホール
内容
「Heaven dance」
「トッカータ・
　マルチアーレ」
「シンフォニック
　スウィート」
「オーメンズ
　オブ　ラブ」
「コパカバーナ」
「ボイジャー」
「アメリカン
　グラフティーⅣ」
「ハーリ・
　ヤノ・・・」

後日、ポスターを掲示しますので、詳しくはそちらを御覧下さい。入場無料です。

（すしや）

『'92大泉祭』みんなの反応

――アンケート集計結果――

先日、皆さんにお答えいただいたアンケートの結果です。

No.1　今年の文化祭はどうでしたか？
A、大変よかった。一六五
B、まあまあ。　五一六
C、最悪。　六七

No.2　今年のパンフレットはどうでしたか？（マップ、カット、構成等）
良 欄外の一言はよかった。（でもちょっと内輪でしたね。すみません）。
良 マップが見やすくなった。
悪 マップがわかりにくい（毎年苦労の種です）。
悪 何年何組がどこでやっているのかわからない。
悪 カットが良くない（どのような物がよいのですか）。
他 一〇三円は高い。

No.3　今年のポスターはどうでしたか？
良 可愛かった。
良 色が綺麗。
悪 印象が薄い。
他 トイレのドアに貼らないで欲しい（誰ですか貼ったのは！）。

No.4　演音祭で面白かったものは？（上位三位）
ダンス部　二六六
モンキーパンツ　一三七
フォークソング同好会　八三
（一位は例年通りでした。二位は前評判が高かったのが理由ではないでしょうか）。

No.5　石神井聾学校の展示を見ましたか？
YES　五二
NO　五七八
Y 企画はいい。
Y とても素晴らしく心がこもっているものばかりだった。
N 知らなかった。
N 見る時間がなかった。
意見
○スペースがせまい。
○場所の明示、宣伝をしてほしい（これは前日に場所が変わったことなどがありましたが宣伝が行き届かなかったのは文実の過失です。来年は善処したいと思います）。

No.6　装飾（看板、案内板、クラスのポスター等）はどうでしたか？
良 案内板がよかった。
良 クラスポスターが楽しい。
悪 装飾が少なく、寂しい。
悪 ポスターの制限がありすぎる（ポスターの枚数、はんこ、掲示場所の制約は当然のことだと思います。枚数については考慮したいと思います）。

No.7　正面玄関にあった美術部のゲート及びマスコット委員会のマスコットはどうでしたか？
良 インパクトがあってよい。
良 いつもより凝っていた。
良 もっと目立つ所に置いた方がよい（例えば正面玄関、桜並木etc）。
悪 ゲートが倒れてきた（美術部は企画がよく評判でしたが注意して下さい）。
他 斉藤さんがよかった。

No.8　各クラスに掲示してあった文実会報を読みましたか。
YES　一〇三
NO　五六〇
Y 実用的でわかりやすい。
Y なかなか興味深く又参考になった。
N 知らなかった。
N 興味がない。
意見
○クラスの文実が知らせてくれると良い（考慮します）。
○皆に配ればよい。
○字が汚い（す・すみません っ！）。

No.9　その他何か感想があったらお書きください。
○後夜祭をやりたい（今年は予算の関係でできませんでした。後夜祭委員会を作ればできるはずですが要はやる気です。）
○火気使用禁止が残念。
○盛り上がりが足りない。
○学校が広すぎるので、使う校舎を減らしては？（確かに広く、迷いやすいですが、団体数から言って無理でしょう）。
○文化祭中は体育館へのチャイム放送は切るべきだ（放送を入れるのは先生方のようです。先生方、検討をお願いします）。
○劇や映画のビデオを図書館で貸し出してほしい。
○文実の皆さん御苦労様でした（ありがとうございます！）。

～文実より～

ご協力ありがとうございました。パンフレットのカット・ポスター・マスコット・ゲートの図案は、個人の好悪や見方の違いもありますので、皆さん全員の意見に沿うことは難しいと思います。ですから否定の意見などがある場合は、どう悪いのか、どうしたいのか、具体的意見を出していただければ、来年の参考にすることができますのでよろしくお願いします。又、予算の都合上不可能なこともあります。規則もそれなりに考えてつくったものですのでご了承下さい。

文化祭を楽しむための一番の秘訣は何といってもクラス委員会などのスタッフに参加することです。盛りあがりにかけるという意見の人は、スタッフにどんどん参加して盛り上げていって下さい。

来年も皆さんの積極的な参加をお待ちしています。ご意見、ご感想は文化祭実行委員会まで。

〈文化祭実行委員会PR局〉

〝光と影を結び、時告ぐる高き山羊の、陽に向かひし眼に我を収めよ。光と影、再び一つとなりて蘇らん〟byルパン

僕個人としては、今年の文化祭は楽しかった。けっこう内容も充実していたし、演音祭もよかった。それにしても〝ルパンⅢ世〟やって、いい思い出になったなぁ。

《G》

《サッカー部》

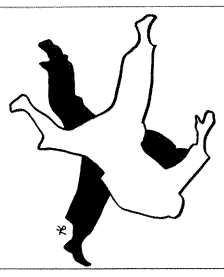
新人戦ブロック優勝！都大会出場。只今関東大会へ向けて練習中。「サッカー部って強いわねぇ。」「私ファンクラブ入ったんだぁ。」「え、いいなぁ私も入ろうかなぁ。」こんな会話が飛びかうのも、時間の問題だろう。

（GORO）

《柔道部》

踊る柔道部。回る柔道部。女子は3人もいる。今入れば君も女の子と寝技の嵐。今なら抽せんで5名まで入部可能。女の子は何人でもOK。と矢野先生が言ってました……。

by平田



STAFF

今回、大泉高校新聞一五二号の編集にあたった、各記事責任者。

○N…西　未生（1面担当）
○D…河野　大輔（4面担当）
○J…永井　潤
○H…板井　広典
○R…入沢　一郎
◎G…大澤　悟郎（2・3面担当）

以上

それぞれ忙しい中、御苦労様でした。又、この新聞制作にあたって協力して下さった皆さん、ありがとうございました。

ネチャリが斬る　第1回

不毛の論議

「ヘア」問題に思ふこと……。

現代美術の表現技法には、様々なものがあるが、その中で、目下のところ最大の関心を集めているものが、憲法の「表現の自由」条項とのかかわりのある所謂「ヘア」問題である。この「ヘア」問題、昔から一騒動起こしてきた問題であるが、特に最近篠山紀信氏の樋口可南子、「ウォーターフルーツ」に端を発した一連の写真集によって、再び賑やかになってきた。警察は否定しているが、私個人の意見を言わせてもらえば、映倫・刑法は共に憲法九条の如くなしくずしにされて「ヘア解禁」は近い将来の事ではないかと思う。

それでは過去の事例を参考にしながら、我々がこの問題に対し、どのように対処していくべきか考えてみたいと思う。

江戸時代には、「ヘア問題」などというものは存在しなかった。幕府は春画の規制をすることはしたが、その規制を逃れるが為に、ヘアをカットして表現するという考えを持つ者が現れなかったのである。

では、どこでどうなって、この様になってしまったのであろうか。それはやはり、美術界における明治の黒田清輝以来の単純な西洋崇拝が原因ではないだろうか。その結果裸を猥褻というものにとらえる文化と、美しいと、とらえる文化の混沌が生じた。私はそこから間違いが生じたと思う。

今、現代美術や写真の世界でヘアや性器が出るというのは避けられない事である。しかし、日本には現在、事実上の検閲がある。御存知の通り検閲は作品を芸術か猥褻かに区別し、猥褻な作品を排除するものである。しかも、その判断を、芸術を理解出来るはずのない官僚が下すのである。しかし本当は芸術と猥褻の境界の区別なんぞつかないのだ。限りなく境界が曖昧であり、人によって判断基準が違うのだ。警察にしても税関にしても取りしまっているクセに、実はきちんとした線引きを持たずに、無理やり線を引いているのだ。唯一、猥褻の定義らしい定義といえば、昭和三十二年の「チャタレイ夫人の恋人」事件における最高裁の判決で、「徒らに性欲を興奮又は刺激せしめ、普通人の正常な性的道義概念に反するもの」というものだ。よく考えてみよう。この三つの要件を満たすものが、はたしてヘアなのか、性器なのか、それとも絡みなのか？、普通人とは、どのような人か？、どこにもその具体的判断はない。定義といってもこんなに頼りないものなのだ。結局基準なんて誰にもわからないのである。

さらに言わせてもらうなら、私は作品を芸術と猥褻に分け差別している事にも疑問を抱いている。当たり前の様に猥褻は悪く言われているが、何故猥褻がいけないのであろうか。猥褻も一つの価値であるはずだ。だから差別すべきでない。

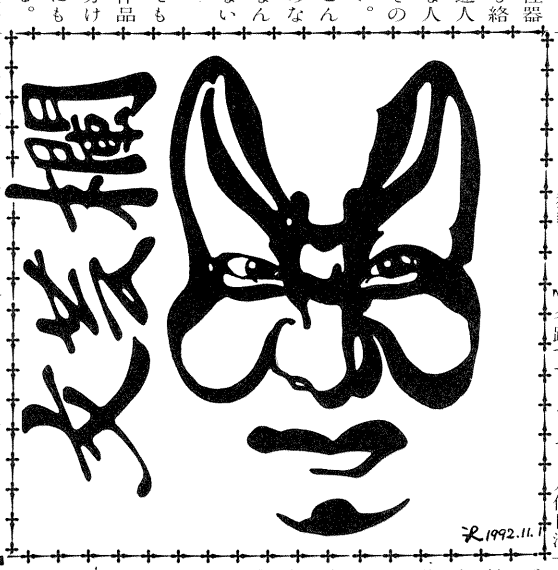
先に述べたように、芸術と猥褻の線引きなどできないのである。しかしそれは芸術と猥褻が同じという事ではない。だから猥褻を芸術と言って堂々とみんなで美術館等で観るというのには反対だ。猥褻なものは、猥褻な雰囲気で猥褻感を出してもらわないと猥褻が台無しだ。

表現の回路はいろいろなところに広がるべきで、あらゆる可能性を否定すべきでないと思う。だから、裏の方でコソコソやらなくてはならないような猥褻も、とても面白いと思うし、そういう手法、方法論は否定してはいけないのだ。そういうものを駄目にしては、結局表現の回路が閉じてしまう。よって猥褻という価値も社会的に認められるべきだと思う。猥褻に対する今の不当な弾圧はすぐにやめるべきである。以上の点から私はこの国による事実上の検閲に反対するのであり、突破口としての「ヘア解禁」を支持するのである。

この意見に対する反論・文句・脅迫を随時受付中です。

≪H≫

●次回予告／新連載『ネチャリが斬る』。世の中の矛盾を突く痛快作。新小復活の救世主となるか。はたしてネチャリとは？数々の謎を抱えたまま、次回に乞う御期待!!



〝桂文楽襲名披露〟にゆく記

エー、一席お笑いを申し上げまして、お付き合いを願っておきます。

桂文楽、この芸名を御存知のかたはどの位いらっしゃいましょうか。古くは明治時代に「デコデコの文楽」として名を馳せた四代目から、完璧な語り口で「昭和の名人」と称された八代目等、過去に名人を幾人も擁した落語界の大名跡です。そして、八代目没後二十二年目の今年、八代目の弟子の一人の桂小益が九代目を襲名したのです。

その襲名披露興行を一日見ようと考えました私は、G君とA君と共に、試験がおわってホッとした十月二十九日、池袋の東京芸術劇場へと足を運びました。出演者は九代目文楽、落語協会会長の柳家小さん（前に○○園の味噌汁のCFに出てた丸顔のオジサンです）、「笑点」でおなじみの林家こん平、暴露ネタで沸かす鈴々舎馬風、等々という豪華メンバーでした。開演前から会場前には長蛇の列ができていましたが、なんとか好位置に並ぶことができ、苦労の末（どこが苦労なんだか）に最前列の席をとることができました。

さて、一番・二番太鼓のあと開演です。はじめは柳家さん好が「手紙無筆」をさらっとこなし、次に橘家竹蔵が小噺をした後、「助六」を踊りました。

そして、馬風。あいかわらずの毒舌で笑いを起こしてから、この人ならではの「噺家の出（楽屋から高座まで出てくること）のまね」を、先代金馬、志ん生、馬生、彦六、円歌と続け最後に馬風の師匠の小さんのまね。ところが、小さんのまねをしている時、楽屋から小さん本人がモップを持って突っ込んでくるハプニングが。小さんに恐れをなした（？）馬風は楽屋へ。こんなことは滅多にないのでとても幸運でした。

中トリの小さんは先程の爆笑の渦とはうって変わって、淡々とお得意の「千早振る」を。さすがは大看板、とてもうまかったです。龍田川の話をふまえての、もとの百人一首の種明かしのところの味は格別でした。小さんを聞けてよかった、と思いました。

中入り後、こん平、馬風、文楽、小さんによる襲名披露口上が、こん平と馬風はギャグを交えた賑やかな口上をして、小さんは堅いけれど内容の深い口上をしたのが対照的でした。

そして、こん平は漫談風に軽く一席。交通標語のこと、「笑点」草創期のこと、故郷越後のことなどの話で会場を沸かしていました。

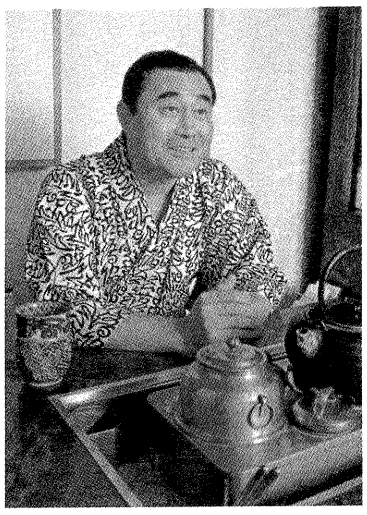
桧山さくらの粋な俗曲の後に、会場割れんばかりの拍手の中を、本日のトリ、お目当て文楽登場。

今日の噺は「宿屋の富」。金持ちを装った一文無しの男が宿屋の主人から買った富くじで千両手に入れるというものです。初めて見る文楽にとても興奮しました。始めの男がホラをふく場面は「金倉はいくつあるかわからない」とか「千両箱を漬物石の代わりに」などとクスグリも多く結構重点を置いていたようでした。そして、富くじの当たり番号を聞いている人達の描写。「うどん食ってねちまう」と「花魁身受けする」の格差が、結構おもしろかったです。一文無しが当たり番号を確認するところは何度も確認することで笑いがありました。「子、子、千、千、三、三、百、百、六、六、十、十、五、五、あったったー！」なんてのがとてもよかったです。この噺は文楽にとってはここにあった噺のようで、手慣れたような感じがしました。

低迷している落語界を復活させるきっかけともいうべき今回の文楽襲名。これからも文楽に頑張ってほしいです。

この文で、みなさんに少しでも寄席の雰囲気をわかってもらえたら幸いです。失礼しました。

≪J≫



よたよた列車大記行

第四回 〝石狩平野のスプリンター〟特急「スーパーホワイトアロー」

今回から私は前記者に替わってこの記事を担当することになった。私自身記事を書くのは初めてなので、まずは、北海道のビジネス特急を紹介することにした。

＊

札幌―旭川間を走るこの列車に旭川から乗ってみる。この区間は道央自動車道を走る高速バスが相手なのでJR北海道の力の入れようもひとしおである。

旭川を出発してすぐに、車内放送と共に石狩川を渡る。昨日の雨で川はにごっているものの、さすがは石狩川、豊かな水量を誇っている。

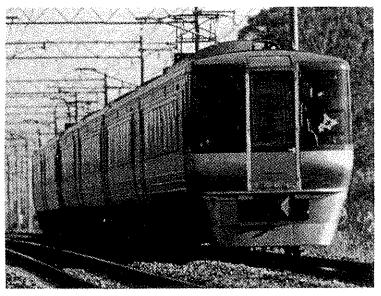
途中、深川に停車し、約三十分で滝川に着く。この駅は道東へ延びる根室本線の起点であるが、石勝線という新線の開通で、人口は多いものの、すっかりさびれてしまった。しかし、落合～新得間の車窓から見る雄大な十勝平野のながめは、一度は見ていただきたいものである。

時速百三十キロで石狩平野を快走する。このあたりは北海道でも有数の稲作地帯で、苗種はキタヒカリである。こうべを垂れている姿は、早い北海道の秋を感じさせる。北海道に稲を持ち込んだ当初は、ほとんど米がとれなかったらしいが、長年の改良により、全国でも有数の稲作地帯となった。その甲斐もあってか、酒もうまいらしく、「男山」は絶品とのことである。

岩見沢を発車し、しばらく行くと、からさおによる脱穀が行なわれていた。今どきめずらしい光景である。そして田から畑へと変わり、千歳線と合流。その畑が市街地に変わるとともに、〈汽笛一声新橋を…〉のオルゴール。列車は高架化された、札幌駅二番線に到着する。

※これからは、全国各地の路線を紹介します。みなさん、乞う御期待！

≪R≫



編集後記

今回は、第一面の編集を担当させていただきました。私を信用して、重要な仕事をくださった委員長に感謝の意を表したいと思います。生徒会室の掃除係長に任命してくださって、本当にありがとうございました。

さて、後期になり新委員長等も滞りなく決定し、これで新聞小委員会も安泰かなぁと思う今日このごろ。これからも『大泉高校新聞』『ミラージュ』ともども、よろしくお願いします。くれぐれも、紙ヒコーキにはしないように。N

≪新聞小委員会名誉編集長≫

今回この編集後記を十一月二十五日に書いているのであります。このことは本当にすばらしいことなのであります。なぜかと言えば、いつもこの文を書くのは期末試験一週間前に入ってからなのであります。そのためいつもここに書く文にはそのためのぐちが入っているのであります。しかしこの文にはそれがない。なんと平和的なことであるだろうか。ウーンスバラシイ。新聞小委員会万歳！。新聞小委員会名誉委員長漫才!!。D

≪新聞小委員会名誉会長≫

あ～あ、つかれた。早く部活に出たいよ～。ったくこんなばかばかしいことやめたくなるよな。どーせだれも読みやあしねぇんだし。時間がもったいねぇよな。

な～んて思いつつも、やっぱり責任を感じてやらざるを得ない。あ～あ、これが〝委員〟と〝委員長〟の違いか。

次代の委員長さん、大変だけどがんばってくれよな。一生懸命やりやあ、きっとみんなも関心を持ってくれるようになると思うからさ。G

≪新聞小委員会名誉委員長≫